

令和6年度(令和5年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

教育部スポーツ課

教育部長 森田 知幸

整理No	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
32-1	大学地域連携スポーツ推進事業	C	スポーツ課が各スポーツクラブに調査等を実施し、全てのスポーツクラブが抱える問題や個別の課題について、愛知県スポーツ協会から講師などを招き勉強会を開催することで課題解決を図った。部活動改革に係る”スポーツ安全保険”の理解を深め会員及び指導者が安心して活動できるための環境整備や、財政基盤安定や実施内容等の基盤強化に関する勉強会を開催し、法人格の取得についてスポーツクラブに対し、取得のメリットや手法を伝えることで、事務局の体制強化や計画的に法人格取得へ動き出すことに貢献できた。	改善推進	運営基盤の強化のため、会費の値上げや施設利用料の導入、会員増加や施設の効率的利用などの課題について、引き続き取り組んでいく必要がある。
32-2	半田福祉ふれあいプール管理運営事業	C	施設利用者数の目標値を達成はできなかったが、利用者の声から、安全性を確保したうえでスマートウォッチのプール内への持ち込みの許可や水着脱水機の設置などを行い、利便性を高めて新たな顧客の開拓を行うとともに、照明設備のLED化による施設の長寿命化を図り、より安心安全に施設を利用することができる環境を整備することができた。今後、安定した利用者の確保を行うためにも、これまでの水泳教室、アクアビクス、リラックスヨガ等の自主事業も積極的に開催できるよう、指定管理者との調整を進めていく。また、利用者が施設を安心安全に利用できるよう、必要な修繕や設備等の整備を行っていく。	改善推進	施設の老朽化による修繕を計画的に行い、繁忙期を避けた工事期間の調整や利用者に対する休館情報の周知を的確に行うことで、利用率に影響が少ない効率的な運営に努めていく。また、新規や固定の利用者を増やすために、指定管理者と定期的に打合せを行い、各種教室、クリスマス企画、幼児プール体験等のイベントを充実させ、利用者の満足度向上に努める。eスポーツ体験などプール以外の利用者の拡大も図る。
課等長	1次評価（令和5年度の総括評価）				
C	実施2年目となる大学地域連携スポーツ推進事業について、前年度から引き続き課題となっていた財政基盤の安定及び強化について、勉強会を開催することで、一部のスポーツクラブにおいて法人格取得へ向けて動き出すことにつなげた。また、部活動改革における保険などの問題についても、全スポーツクラブにおいて理解を深めることができ、直近の課題に対する課題解決を図ることもできた。半田福祉ふれあいプール管理運営事業では、利用者の声を基に、利便性の向上等を図ることができた。				
部等長	2次評価（令和5年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）				
C	大学地域連携スポーツ推進事業における日本福祉大学との連携については、今後も引き続きスポーツ課が課題の把握やそれらの解決方法について、主体的に動き日本福祉大学との連携の中でスポーツクラブと共に課題解決を図ること。 半田福祉ふれあいプールを始め、他の施設の指定管理についても指定管理事業者と主体的・積極的に連携を図り、より良い運用方法等の検討を実施すること。				

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	32-1																																		
PDCA	主要事業名	大学地域連携スポーツ推進事業	部課名	教育部スポーツ課	担当 内線	石川 422																																		
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 3 - 2 - 2 単位施策： スポーツ 全体事業期間： 令和 4 年度 ～ 7 年度 全体事業費等： 5,256 千円 会計 一般会計 歳出科目： 09.06.02.06.50					目標項目（予算計上時に作成） 予算見積書で活用																																		
	事業概要等	事業概要： 大学生や大学教員が地域の現場へ入ることによって、地域の人々とともに地域スポーツ等の課題解決を目指す。																																						
		事業目的： 総合型地域スポーツクラブのウィークポイントをケアし、安定的な運営の実現を図るとともに指導者不足の解消を目指す。																																						
		事業内容： 総合型地域スポーツクラブ運営サポート等研究委託、指導者等派遣委託を実施する。																																						
		問題点： 実施に向けて、大学及び総合型地域スポーツクラブとの連携・調整を綿密に課題等： 実施し、意思統一を図る必要がある。																																						
	予算額	主要事業とする理由																																						
	1,352 千円	大学との連携により地域スポーツを推進していく中で、地域スポーツの礎となっている総合型地域スポーツクラブの健全な運営を促進し、地域課題の解決を目指すため。																																						
	財源内訳	得られる成果																																						
	市費 1,352 千円	総合型地域スポーツクラブのあり方や健全な運営に関する研究や相談、講習会を行うことにより、安定的な運営を実現します。また、地域人材の育成や発掘を行うとともに、指導者不足の解消を図ることができる。																																						
	国費 0 千円	目標値や目指すべき状態																																						
県費 0 千円	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合型地域スポーツクラブ会員数</td> <td>7,349</td> <td>7,364</td> <td>-</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8,000</td> <td>8,000</td> <td>8,000</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	総合型地域スポーツクラブ会員数	7,349	7,364	-	人		8,000	8,000	8,000	人																				
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位																																				
総合型地域スポーツクラブ会員数	7,349	7,364	-	人																																				
	8,000	8,000	8,000	人																																				
その他 0 千円																																								
D 得られた成果と実績値	決算額	得られた成果																																						
	1,352 千円	全ての総合型地域スポーツクラブを対象に「部活動改革に係る」スポーツ安全保険」の活用」に関する説明を実施し、令和6年度の改革を見据えた勉強会を開催し、受入体制の安定化を図ることができた。また、各スポーツクラブが抱える課題についても、個別に勉強会を開催し、団体の基盤強化に貢献することができた。																																						
		成果指標																																						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合型地域スポーツクラブ会員数</td> <td>6,962</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8,000</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						令和5年度	単位	総合型地域スポーツクラブ会員数	6,962	人		8,000	人																									
		令和5年度	単位																																					
	総合型地域スポーツクラブ会員数	6,962	人																																					
		8,000	人																																					
C 課題の整理	事業の評価・課題	C スポーツ課が各スポーツクラブに調査等を実施し、全てのスポーツクラブが抱える問題や個別の課題について、愛知県スポーツ協会から講師などを招き勉強会を開催することで課題解決を図った。部活動改革に係る「スポーツ安全保険」の理解を深め会員及び指導者が安心して活動できるための環境整備や、財政基盤安定や実施内容等の基盤強化に関する勉強会を開催し、法人格の取得についてスポーツクラブに対し、取得のメリットや手法を伝えることで、事務局の体制強化や計画的に法人格取得へ動き出すことに貢献できた。																																						
A 課題の解決に向けた	今後の事業の方向性	改善推進 運営基盤の強化のため、会費の値上げや施設利用料の導入、会員増加や施設の効率的利用などの課題について、引き続き取り組んでいく必要がある。																																						
	観点別評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>必要性</th> <th>有効性</th> <th>効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①市の関与の妥当性 妥当</td> <td>④上位施策への貢献 大きい</td> <td>⑦コスト削減 減余地 ない</td> </tr> <tr> <td>②市民ニーズ 高い</td> <td>⑤成果向上の余地 ある</td> <td>⑧受益者負担適正化余地 ない</td> </tr> <tr> <td>③休廃止の影響 大きい</td> <td>⑥類似事業の有無 ない</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					必要性	有効性	効率性	①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減 減余地 ない	②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある	⑧受益者負担適正化余地 ない	③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない																							
		必要性	有効性	効率性																																				
①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減 減余地 ない																																						
②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある	⑧受益者負担適正化余地 ない																																						
③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない																																							

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート							No.	32-2
PDCA	主要事業名	半田福祉ふれあいプール管理運営事業		部課名	教育部スポーツ課		担当	伊藤
							内線	27-6663
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 3 - 2 - 2 単位施策： スポーツ							
	全体事業期間： 令和 5 年度 ～ 5 年度 全体事業費等： 168,419 千円							
	会計		一般会計		歳出科目： 09.06.04.02.03			
	事業概要等		事業概要： 誰もが安全・快適に親子や友達と水に親しんだり、水泳等スポーツで利用ができるよう施設を維持管理する。 指定管理者制度を導入しており、利用者に近い立場でサービスの向上や、施設のより効率的な運営を行っている。					
			事業目的： 安全・快適な施設となるよう維持管理し、利用者が安全に水泳や水に親しむ場所を提供する。					
			事業内容： ・指定管理者による施設の維持管理 ・1年中水に親しめる場を提供					
			問題点・課題等： 設立当初に設備された機器が多く、熱源切替後の維持管理が非常に重要となる。					
	予算額		主要事業とする理由					
	168,419 千円		今後も半田福祉ふれあいプール利用者に安全・快適な利用環境を提供するため。					
	財源内訳		得られる成果					
	市費 132,111 千円		年間を通じ、水に親しめるスポーツをする機会を提供することができる。					
	国費 0 千円		目標値や目指すべき状態		令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位
	県費 0 千円		施設利用者数	実績値	65,039	93,112	—	人
				目標値	100,000	140,000	140,000	人
	その他 36,308 千円			実績値				
			目標値					
			実績値					
			目標値					
D 実績 得られた成果と	決算額		得られた成果					
	141,547 千円		利用者の声を反映したイベント開催や利用環境の提供に取り組むとともに、照明設備のLED化をはじめ、より安心安全に施設を利用できる施設環境を整備することで、利用者の満足度向上に繋げることができた。					
			成果指標		令和5年度		単位	
			施設利用者数	実績値	95,866	人		
				目標値	140,000	人		
C 課題の整理	事業の評価・課題		施設利用者数の目標値を達成はできなかったが、利用者の声から、安全性を確保したうえでスマートウォッチのプール内への持ち込みの許可や水着脱水機の設置などを行い、利便性を高めて新たな顧客の開拓を行うとともに、照明設備のLED化による施設の長寿命化を図り、より安心安全に施設を利用することができる環境を整備することができた。 今後、安定した利用者の確保を行うためにも、これまでの水泳教室、アクアビクス、リラックスヨガ等の自主事業も積極的に開催できるよう、指定管理者との調整を進めていく。 また、利用者が施設を安心安全に利用できるよう、必要な修繕や設備等の整備を行っていく。					
			改善推進					
A 課題の解決に向けた	今後の事業の方向性		施設の老朽化による修繕を計画的に行い、繁忙期を避けた工事期間の調整や利用者に対する休館情報の周知を的確に行うことで、利用率に影響が少ない効率的な運営に努めていく。 また、新規や固定の利用者を増やすために、指定管理者と定期的に打合せを行い、各種教室、クリスマス企画、幼児プール体験等のイベントを充実させ、利用者の満足度向上に努める。 eスポーツ体験などプール以外の利用者の拡大も図る。					
	観点別評価		必要性		有効性		効率性	
			①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減 減余地	ある	
			②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地	ある	⑧受益者負担適正化余地	※手段の変更	
			③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無	ない	ない		